

平成 25 年度 海外渡航旅費助成金成果報告書

京都大学理学研究科地球惑星科学専攻

修士二年 前田純侖

この度、平成 25 年度海外渡航旅費(後期)の助成により、2013 年 12 月 9 日から 13 日までの 5 日間に渡って、アメリカ合衆国サンフランシスコにて開催された米国地球物理学連合の秋季大会である「AGU Fall Meeting2013」に参加し、ポスター発表を行いました。ここに、関係者の皆様に感謝の意を示すとともに、学会参加報告をさせていただきます。

米国地球物理学連合(AGU)は地球物理学分野において世界最大の学会であり、毎年 12 月中旬に秋季大会がアメリカ合衆国サンフランシスコにおいて 5 日間の日程で開催されております。今大会において、私は 1 日目に「Background seismicity controlled by heterogeneity in subsurface geology: An example from the Wakayama region, southwest Japan」というタイトルでポスター発表を行いました(写真 1)。

通常、内陸地殻内地震の発生をコントロールする要因の 1 つに地質構造が考えられますが、地震活動と地質構造を数 km オーダーで詳細に対比した例は少なく、地震活動が既存の弱面によるのか、岩相差による強度や含水率等によるものか、といった具体的な検討は行われていません。本発表では浅部地殻内での地震活動が活発な紀伊半島北西部に注目し、地質構造の不均質が及ぼす地震発生への影響を調べた結果を報告しました。

今回、初めての国際学会での発表ということで、非常に緊張してしまい、ポスター発表にも関わらず、積極的に話しかけることができませんでした。ところが、非常に興味を持ってくださった方がおられ、稚拙な英語の発表にも関わらず、熱心に話を聞いてくださいましたので、パワーポイントを用いたり、ノートに絵を描いての説明を行いました。話し合いの最後には、拙い発表だったにも関わらず、「貴方の研究は面白いですね。」と言ってくださり、とても嬉しく思いました。

そのポスター発表も 1 日目で終わりましたので、その後は他の研究発表を聞く為に会場内を動き回りました。初日の午前は発表の準備をし、午後はずっと自分のポスター前におりましたので、会場内をあまり見ていなかったのですが、実は会場内でお酒が振る舞われており、午後のポスター会場(写真 2)ではお酒を飲みながら議論をしている方が大勢いるのを目にしました。また、地べたに座ってパソコンを使用している方も大勢おり、日本の学会では見られないような光景にいろいろと驚くことができました。最終日には、自分の研究と関係するような発表や自分の興味がある発表を多数聞く事ができました。特に気になっ

たのは、発震機構から求められた応力の方位が断層を横切って半時計回りに回転を示しており、その回転を説明するのに2つのシナリオがあるとのことでした。今回、私が発表した研究も発震機構を用いており、その発震機構の解釈をどうするかとの質問を受けましたので、その研究を参考にさせて頂きたいと思いました。本大会が初めての国際学会となる私にとって、今回の発表がうまくいったとは言えませんが、とても貴重な経験となりました。

最後になりましたが、本大会に出席するにあたってご支援を賜りました日本地震学会および関係者の皆様に心より感謝し、御礼を申し上げます。そして、これからも研鑽を重ねてまいりたいと思います。本当にありがとうございました。

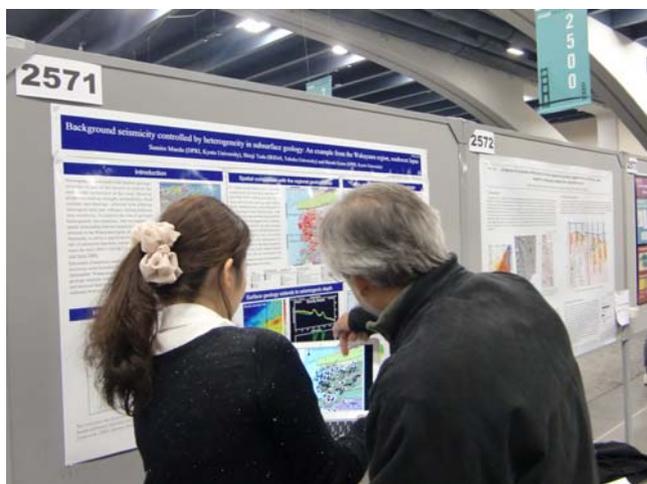


写真1 ポスター発表の様子



写真2 ポスター会場